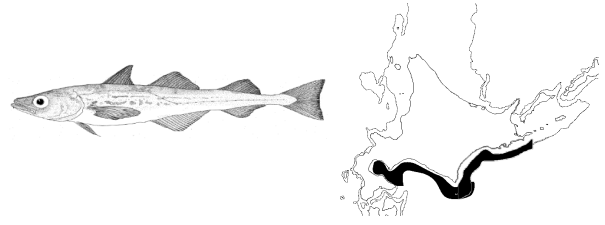


# 2.スケトウダラ

主な漁業と漁期  
 沖合底びき網：9～翌5月  
 刺し網・定置網：10～翌3月



## 太平洋海域 【太平洋系群】

### 生態

#### ◆分布・回遊

太平洋側のスケトウダラは房総沖から千島列島にかけて分布しています。噴火湾周辺海域が主産卵場で、噴火湾内で仔稚魚期を過ごした後、主に道東太平洋海域へ移動します。成熟に伴い産卵期には胆振・渡島海域に來遊します。

#### ◆産卵期・産卵場

- ◎産卵期は12～翌3月で、盛期は1～2月です。
- ◎産卵場は噴火湾内および胆振～噴火湾湾口部～渡島海域に至る水深200m以浅の海域に形成されます。

#### ◆成長・成熟

(10～翌3月)

	体長(cm)	体重(g)
2歳	31	225
3歳	34	331
4歳	38	441
5歳	41	536
6歳	43	623
7歳	45	685
8歳以上	47	793

- \*) 刺し網・定置・沖底漁獲物の生物測定結果より
- \*) 2015～2021年測定分
- \*) 加齢の基準日：4月1日

#### ◎成熟年齢・体長

3歳から成熟する個体がみられ、4歳以上で大部分の個体が成熟します。

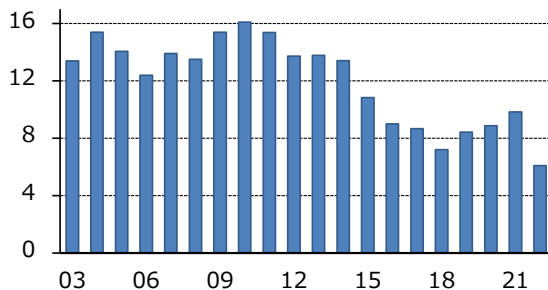
### 資源評価

[評価年] 4月～翌3月

[資源量の指標] 刺し網資源量指数

豊度の高い2016年生まれの加入等により、2019年以降の漁獲量は増加傾向にありましたが、2022年度の漁獲量は約6.1万トンと前年より大きく減少しました。2022年度の資源水準は中水準で、翌年にかけての資源動向は横ばいと判断されました。近年の漁獲努力量は沿岸漁業、沖底漁業ともに低下傾向にあり、漁獲強度は資源の持続的な利用を図るうえで適切なレベルと考えられます。

漁獲量 (万トン)



2022年度  
 の水準



中水準

2023年度  
 の動向



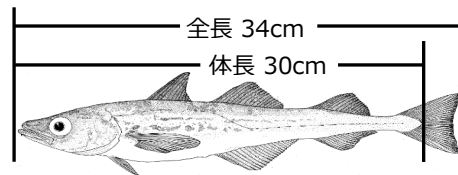
横ばい

※道総研が受託している国の資源評価調査のデータも利用して評価しています。

### 資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

- TAC (漁獲可能量) 管理  
 2023年漁期のTACは、大臣管理分(道東太平洋、東北分を含む)99.7千トン、北海道知事管理分は69.1千トンです。(2023年11月現在)
- 資源管理協定 (2019年3月更新)  
 関係漁業者間で体長30cm又は全長34cm未満の未成魚保護を目的とする漁場移動等を定めています。



☆資源の有効利用のため、現状の取り組みの継続が必要です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係  
 北海道立総合研究機構 函館水産試験場調査研究部

電話 011-204-5477  
 電話 0138-83-2893